

第12回民俗学シンポジウム「秋田学」報告概要

「秋田県民はヒトや生物の心をどうとらえているか？」

○瀧澤純（ノースアジア大学 法学部准教授 雪国民俗館館員）

「イヌに心はあるのか？」この質問には、多くの人が「ある」と答える。では、「ダンゴムシには？コケには？……」と問いを広げながら、「なぜ心がある／ないと感じるのか？」と考えるとどうだろうか。私達にとっての心がなんとも不可思議なものであり、言葉にしにくく、定義が難しいものであると気づくだろう。今回の報告では、秋田県における心の定義の特徴を考えたい。そのために、報告者が行った「～に心はあるか？」と質問するアンケートについて、秋田県と東京都の大学生を比較した結果を報告する。マタギ文化や昆虫食の影響はあるのか、*アニミズム的思考はみられるのか、他者や生物との関わり方の違いが反映されるのか。すなわち、秋田の風土や文化が「心がある」という認識に影響を与えているのか否かを検討したい。

*アニミズム…無生物にも生命や意識を認める現象